

出前講座「備えあれば・・・所沢市の

防災・減災対策」

2023-7-23 記 小川 雅愛

■実施日 2023-7-20 (木) 11:05～12:15

■講師 所沢市役所 危機管理室

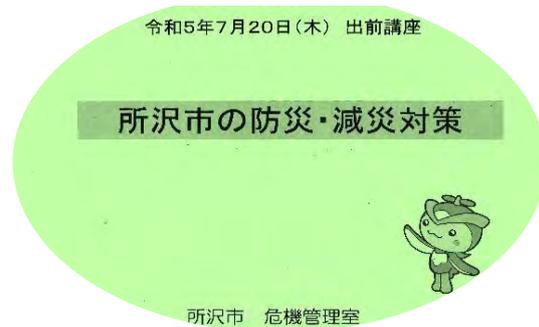
主任 山下 静様

主任 瀬能 幸則様

■参加者 19 名

■会場 中央公民館 8・9 号室

■資料 パワーポイントコピー講座資料 (24P)



私たちのサークルでは歴史的事象だけでなく、所沢市の現在・将来（近未来）の発展的事象に関する事なども学びのテーマとして、過去 4 回の出前講座をお願いしてきました。昨年のテーマは所沢市の目指すゼロカーボンシティの推進でした。今年は新聞・マスコミ報道に頻りに登場する関東大震災 100 年目にあたり、市の災害対策の最前線でとり組まれておられる危機管理室の「所沢市の防災・減災対策」をテーマをお願いすることとしました。

7 月 16 日（日）には所沢市が全国で 3 番目の 39.4℃の最高気温を記録、熱中症警戒アラートが発令され、災害の少ない町とは言えないような体に堪える厳しい暑さの日が続いているさなか、自治会で防災対策委員の経歴を持つ会員、関東大震災の特集テーマに取り組まれる会員等々、防災・減災対策に関心を寄せられる会員に多く参加していただき開催することができました。講座ではパワーポイントを駆使した映像と丁寧な解説で参加者は多くの示唆をえることができ、防災意識を高めることができましたと思います。講座は次の三部構成で進められ、その一部を感想ともども報告します。

○テーマの構成

1. 所沢市で想定される災害

- ① 地震一種類、埼玉県で想定されている地震、所沢市周辺の活断層帯、所沢市で想定されている被害

- ② 水害一種類、洪水ハザードマップ、過去の台風による被害、
- ③ 土砂災害
- 2. 所沢市の対策
 - ① 避難場所・避難所 ②市職員の参集体制 ③備蓄 ④感染症対策 ⑤情報提供手段
 - ⑥要配慮者対策 ⑦水の確保
- 3. これからの自助
 - ① 自助・共助・公助 ②在宅避難
 - ③備蓄と避難の相関 ④ライフラインと自助 ⑤正常化の偏見
 - ⑥生活防災 ⑦家での被災回避（家具の転倒防止、整理整頓、家具の置き方）
 - ⑧物資の備蓄（ローリングストックとは、一人3日分ストック例、トイレの備蓄、氷で飲み物確保、懐中電灯とレジ袋、新聞紙・ラップ・ポリ袋の活用例、緊急用の笛）、避難路の確保等

1 所沢市で想定される災害
 (2)埼玉県で想定されている主な地震

○海溝型地震
 東京湾北部地震[M7.3]
 今後30年以内の発生確率
 70%以下



○活断層型地震
 立川断層帯地震[M7.4]
 今後30年以内の発生確率
 0.5~2%
 (平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査より)



○所沢市で想定される災害

・地震ー立川断層帯地震

所沢市で想定されている地震は海溝型の東京湾北部地震と活断層型の立川断層帯地震の2つ、想定される被害からは立川断層帯地震がより対策をとらなければならないと考えられています。海溝型の30年以内の発生確率は70%以下、これはフィリピン海プレート全体でおこる確率という。これに比べ立川断層帯地震の同様な確率は0.5~2%ですが活断層帯地震は普通0.1%以下です。阪神・淡路大震災について近畿地方では平常時も関東地方などと比べて有感地震はほとんどないなかで活断層のずれによって突然に発生したことを考え合わせると改めてしっかりした備えをしなければならないと感じます。

立川断層帯は飯能市名栗溪谷（断層）から狭山丘陵南側を通り、東京都府中市にかけて南北約33キロの活断層帯、所沢市では西部地域が東部地域に比べより震度が高いと予想されています。

○所沢市の対策

・備蓄—公助に類すること

各指定避難場所に防災備蓄倉庫が設置されていることは通常、散歩の途中などでよく目にしますが内部に何が置かれているのかは自治会等で役員経験者でないと見たことはないと思われま

す。これは過去の災害から学んだ品々と思われま

す。簡易トイレやトイレ用凝固剤、油圧ジャッキなど想像以上のものが備蓄

されているのは注目されます。水はここにはありません。

水の確保は浄水場の備えや公立小中学校の受水槽を水がめとして使用されていることもよく目にします。市民 34 万人の 12 日分

の備えですが、水は医療施設などに災害時は優先供給されます。

地震発生直後はすぐに家庭にいき亘るとは限らないので個々で水の備蓄が大切でしょう。

○これからの自助
・自助 7 割—発生当初は自助・共助が災害対策の主軸
所沢市発行「防災ガイド・避難所マップ」の表紙には自助・共助・公助の 3 つの柱が輪につながれたデザインであらわされているので柱はともに同じウエイトとっていました。本日の講座では自助が最重要と解説されました。右の図のように地震発生時に人命救出された割合（丸の大きさ）からとるべく行動・対策として導かれたものです。

立川断層帯地震では避難者は 1 万人強と想定、水の確保、備蓄があれば 9 割の市民はひしめき合う避難所よりもストレスを感じない自宅での避難生活がむしろよいと推奨されました。ライフラインの復旧の最大の下水道：20 日間まで自助努力により生きのびることでした。

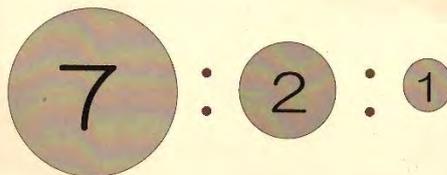
防災対策＝個人の自助はえてして“そもそも、まだ起こらない”のに面倒という意識を自分で決めてしまう。これを「正常化の偏見」という言葉で説明されました。また防災では加古川市自主防災会の提唱による 日常の暮らしの中で意識しないで組み入れる防災アンテナを「生活防災」の概念で説明され、自分たちの取り組みにも自然体が必要だろうと思います。

ご家庭での対策では特に重要なのは 家具の転倒防止、ローリングストックで説明された物資の備蓄（水・食糧・）、トイレの備蓄ということでした。

3 これからの自助

災害時に消防等（公助）が人命救出できた割合は低く、発災当初は自助・共助が災害対策の主軸となる。

自助（家庭）、共助（地域）、公助（行政）



2 所沢市の対策

(3) 備蓄



この後、質疑応答(ライフラインの上水道・下水道の復旧期間、公的備蓄の想定人数等々)があり、

会員の意識・関心の高さを感じるまとめとなりました。今回は関東大震災 100 年目にあたり、地震災害と対策が中心となりました。地震対策ではどうしても避けられない火災、関東大震災や阪神・淡路大震災の大火災、東日本大震災の津波と火災のように火災についても注意したいように感じます。

風水害、土砂災害等の起こりうる災害の対策をテーマとしての出前講座も機会があればぜひ聞きたいものです。なお、タイトル“備えあれば・・・”の・・・は“憂いなし”というより “備えあれば想定外なし”が「埼玉防災マニュアル」の標語で、自助においても想定外ということのないように備えるということを意味しています。個人の自助努力が自分を守ることに繋がると認識を新たにした講座でした。

今回は急な申し込みにも快く講座の開催にこたえていただいた危機管理室のご厚意に改めてお礼申し上げます。

以上

講座担当 E グループ

國谷 梅津 伊藤 恩田 越阪部 *田沼 *曾部 *小川 *印が今回の担当者